

私たちの
思い出の場所

居酒屋工房 居ざけ屋 日高昌樹さん



思い出の場所
募集中!

気兼ねなく集まれる場所を提供したい

店長の日高昌樹さんは工学部のご出身です。

文教キャンパスに近いビル2階。正確な時期は分かりませんが、30年ほど前にオープンしたのではないのでしょうか。僕自身、長崎大学出身ということもあり、学生時代は部活終わりに仲間と飲みに行く店の一つでした。

最大100名収容できる広い座敷は、当時から隣のテーブルとの仕切りがなく開放的な空間でした。いつもたくさんの大学生で賑わうなか、皆で調子に乗って、順番に焼酎の一杯飲みを、大勢が酔いつぶれるなど、私が学生の頃にはまだそんな飲み方が学生の中で行わ

れていました。その結果、羽目を外し過ぎた私たちのグループは、私が1年生の時に、なんと出入り禁止になってしまいました。そんな苦い経験をしたお店に、なぜか私は就職することになりました。ただ採用面接は相当ひやひやものでしたよ。でもこの店で働き始めてもう15年です。不思議な縁を感じています。

居ざけ屋としてご利用いただいたスペースは、コロナ禍以降、予約のみの団体専用とさせていただいています。長大の学生さんたちも、サークルの集まりなどよく飲みに来てくれます。いつでも気兼ねなく集まれる場所を提供したいので、おつまみ程度のお料理と飲み放題が付く2500円のコースも用意しているんですよ。お酒の種類も豊富にそろえています。私たちが無茶な飲み方をしている学生さんはいません(笑)。アルバイト生のみならず、学業を



開放的なスペースはかつてのまま。現在は団体専用です。



居ざけ屋の定番メニュー、カリカリじゃがいものサラダ。

決して疎かにせず働いてくれる頼もしい存在です。

また、卒業生の皆さんの中には、私と同じように当店や大学周辺の飲食店で、仲間とお酒を飲む楽しさを感じたという方も、たくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。もし機会があれば、懐かしいこの店に顔を出し、後輩たちの大人しい飲み方を見に来てください。



おなじみの階段と昭和町通りから見える看板は、今もそのままです。

アンケートのご協力をお願い

広報紙Chohoへのご意見・ご感想をお寄せください。

- ①面白かった記事 ②本紙に対する意見・感想
- ③今後取り扱ってほしい内容 ④長崎大学からの情報発信全般についての意見・感想
- ⑤本学との関係 ⑥年齢 ⑦氏名(ふりがな) ⑧郵便番号 ⑨住所 ⑩電話番号を明記してください。



○ハガキ/〒852-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学広報戦略本部 宛

○FAX/095-819-2156

○メール/ kouhou@ml.nagasaki-u.ac.jp

○応募期間/2024年10月末まで

読者プレゼント

アンケートにご協力いただいた皆様の中から、抽選で10名様に、「長崎大学オリジナルQUOカード(500円分)」をプレゼントします。賞品の発送は2024年11月を予定しています。※当選者の発表は発送をもって代させていただきます。

長崎大学SNSサイト



X



Facebook



Instagram



YouTube

Choho 直接送付サービス 受付中!



広報紙Chohoはその多くを、各学部同窓会様の会報誌送付の際に、直近の号を同封してお送りさせていただいています。そのため、読者の皆様には、必ずしもChohoを毎号お届けできないケースがあり、「前号のChohoも読みたい」「定期送付を希望」といったお声をいただいております。そこで、ご指定の住所へChohoを直送させていただくサービスを行っています。上記サイトへアクセスいただき、ご登録をお願いいたします。皆様のご利用をお待ちしております。

送付先変更のご連絡はこちらまで



編集後記

今回の特集テーマを決めたきっかけは、フットサル部FORZAの全国制覇でした。その快挙の裏には、猛練習だけでなく、部員同士の話し合いや、ひとりひとりの努力、葛藤があったことを知り、ぜひそれを多くの方に知っていただきたいと思いました。

FORZAに限らず、今回取材した4サークルのいずれも、目標達成のためにやるべきことを自ら考え、課題に向き合い、仲間と切磋琢磨を繰り返しており、それが結果として自らの成長や自信に繋がっているように感じられました。全国制覇といった華やかな結果だけでなく、地域との繋がりが社会貢献を通じて、何かを果たそうとする様子は、眩しく輝いて見え、羨ましささえ感じたほどです。今回、編集を終えて、彼らがこの成長を糧に、自ら切り拓いた未来でさらなる飛躍を遂げる姿を期待する自分がありました。皆様も長大生の熱い一面を知っていただき、応援いただけたら幸いです。

最後に、FORZAの皆さん、全国制覇おめでとうございます!

(広報戦略課 笹山志帆)

国立大学法人
長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

Choho

Nagasaki University

Web Choho

Vol.85

2024年7月1日発行

「人を結ぶ 地域と繋ぐ」をコンセプトに、長崎大学の思いや姿、描く未来などを共有し、多くの皆様に長崎大学へ関心をお寄せいただけるような広報紙を目指します。

人を結ぶ 地域と繋ぐ
[長崎大学チヨホー]

長崎大学の
サークルが熱い!

長崎大学サークル応援サイト

初の 2024.3.10 全国制覇 FORZA

FORZA
NAGASAKI UNIVERSITY
FUZZAL CLUB
SINCE 1991

決勝/4-2 VS 順天堂大学フットサル部GAZIL/jfc

準決勝/8-4 VS 松山大学

今年3月、長崎大学フットサル部FORZAが「LUXPERIOR CUP地域大学フットサルチャンピオンズリーグ2023-2024(以下、地域大学CL)」で、初の大学日本一を成し遂げました。有名私立大学など主要都市から強豪校が顔を揃えるなか、地方の国立大学チームが繰り広げた快進撃に、OBやサポーターといった学内外の皆様から、たくさんの応援と祝福の声が届きました。

本学ではFORZAを含む、182の大学公認サークルが活動しています。学業、サークル活動、アルバイトとめぐる日々の中で、初めての一人暮らしなど自主性が求められる大学生活。様々な課題をクリアしながら前に進んでいる学生たちにとって、サークル活動はどのような成長を促してくれるのでしょうか。4つのサークルに注目し、それぞれの奮闘する姿と想いをご紹介します。



選手間の意思疎通が勝敗を左右します。普段から立場に関係なく要求し合える環境づくりを心がけました。

加藤遼太さん
(工学部4年)



地方予選敗退と翌年の大学日本一まさかの快進撃の裏側

フットサル部 FORZA

SNSは、より多くの人の目に留まる画像を追求。読みやすい文字の配置や色の組み合わせなど研究しました。

原田拓真さん
(工学研究科博士前期課程2年)



優勝につながる道を切り開いた4つのチームビジョン

1年前、2023年夏の全日本大学フットサル大会。FORZAは大学日本一を目標に掲げていましたが、結果は九州大会予選敗退。当時、キャプテンだった加藤遼太さんは、思わぬ結果に大きなプレッシャーを感じていました。「それまで全国大会には2年連続で進んでいました。日本一になることが目標だったのに、ふたを開けてみればこの結果です。しかも歴代最強と言われた2022年のチームから体制が変わったばかりの頃だったので、キャプテンとして重責を感じていました」。

なぜ負けたのかチームで話し合う場を設けた加藤さん。「本気で楽しむ、立場に関係なく要求し合える、謙虚な姿勢で感謝を表現できる、主体的に行動する」。目標達成に向けて組み立てていたこの4つのビジョンをクリアできているのか、メンバーと確認しました。さらに日本一にふさわしい集団になることを目指して、技術面はもちろん食生活など実生活を含めた改善にも意識を向けました」。



監督を務める小出泰太さん(右)、新キャプテンの山下理久さん。「今シーズンの目標は全日本大学フットサル大会優勝です」。

その結果、地域大学CLの予選である九州大学リーグを無敗で優勝し、全国大会への出場権を得ます。さらに、全国大会も順調に勝ち進み、ついに決勝戦へ。そこで対戦したのが順天堂大学。実は順天堂大学は、2018年に全国大会に初出場した先輩たちが、初戦で大敗した相手でした。個人技に長けた順天堂大学、片や守りの長崎大学。かつて手も足も出なかった宿敵を相手に緊迫した試合展開の中、接戦を繰り返して、少ないチャンスを確実に得点に繋げた長崎大学は、4対2のスコアで夢のビッグタイトルを掴み取ることができたのです。「先輩たちの雪辱を果たした意味でも、優勝はもちろん嬉しかったです。でもビジョンの達成に向かって、しっかり努力できたかと言えば完全ではなかったと思います。それは裏を返せば、自分たちにはまだまだ伸びしろがあるということ。FORZAの挑戦はこれからも続きます。僕自身、自分たちの力でチームを創り上げる輪の中心にいたことが大きな自信になりました」。

現在、新キャプテンを中心に新しいシーズンがスタートしたFORZA。「今シーズンは、「国立大学の道しるべになる」という新たなミッションを掲げています。僕たち地方の国立大学チームは、私立に比べて選手層や練習環境が整っている訳ではありません。限られた条件の中でどう成果を出していくのか、同じような環境にいる大学生の道しるべになりたいと思います」。

©JFF



プレー中は勝ち負けにとことんこだわる! 集中力がアップする秘訣です。



土田真平さん
(総合生産科学研究科博士前期課程1年)

得点王のメンタルコントロール術

地域大学CLで得点王になった土田真平さんは、サッカーからフットサルに転向後、思うようなプレーができず落ち込んでいた時期があったと言います。「技術の向上には限界があるけれど、メンタルは鍛えられると思いました。大きな大会になればなるほど、持っている力を100%出さざるを得ない。楽しむのも上手いと思いません。声に出してみるとか笑ってみるとか、良いプレーができた時にはしっかり喜び、まずいプレーをした時はきちんと反省し、プレーを修正することを心がけると、緊張がほぐれてプレーに集中できるようになりました」。

現在、土田さんは大学院で浮体式の洋上風力発電装置が、魚類に及

ぼす影響について研究しています。「海中に漂うウロコや糞などから生物のDNAを検出する、環境DNA技術を駆使した研究です。海水を採取するだけで海中にどんな生物がいるのか調べることができるので、風が強い風車の周りでも短時間で調査が可能です」。

論文の執筆や乗船実験など、研究活動と大事な試合が重なることもあるのでは? 「優先すべきは研究なので、船上ではストレスをためないようにフットサルのことは一切忘れず。研究室の仲間も私のフットサルへの思いと活動を理解してくれていたの、サポートしてくれました」。

一つ一つのプレーや目の前のやるべき課題に集中して向き合う。簡単なことではありません。土田さんの優れたメンタルコントロール術は、チームを優勝に導く一つの要因となり、さらに自身自身の成長にもつながったのでしょ。



乗船実験中の土田さん。大切な試合前でも洋上では、フットサルのことは忘れて研究に集中します。

応援されるチームになるために

初優勝の原動力になった要因の一つに、積極的な広報活動が挙げられます。たくさんの応援が大きな力になるからです。原田拓真さんは、学部3年次からFORZAの広報を担当しています。

「大ケガをして高校生でサッカーを辞めました。サッカーを好きな気持ちはどこかにあったので、大学でフットサルを始めてはみたものの、公式戦では出場が少なく悔しい時期が続き、今の自分に何ができるんだろう、そう考えるようになりました」。

広報担当になったのはその矢先のこと。原田さんは「広報活動を通して、応援されるチームづくりに貢献しよう」と気持ちを切り替えました。「4年の夏に選手を辞めて、広報に専念したいと監督に伝えました。大学院に進学後もチームに残って広報に打ち込んだのも、大学日本一になるFORZAの姿を見届けたかったからかもしれません」。

ベンチで見守った地域大学CL決勝戦。原田さんは優勝の瞬間をこう振り返ります。「終了直後は泣きそうになりましたが、優勝報告用に準備していた画像をSNSにアップしなさんとすぐに我に返りました。嬉し涙も一瞬で引きました」。

ここまで応援して下さった方々に一刻も早くこの吉報を届け、感謝の気持ちを伝えたいのと同時に、優勝という実績を広く発信して、より多くの人の応援や支援を得る、それが広報としてやるべきこと。フィールドを離れたとしても、チームに貢献できる。自らの決断をやり遂げた原田さんは、間違いなく優勝の立役者の1人なのです。

@nu_forza_official

福祉用具作らん場

体が不自由な人たちを支えるモノづくりという名の支援



加藤亮太さん(工学研究科博士前期課程1年)が手にしているのは、声に反応するクリスマスツリー。

福祉用具作らん場は、2020年創部のまだ若いサークルです。工学研究科の石松隆和名誉教授の下、障がい者の要望を聞き取り、福祉用具を開発する活動をしています。

部長の加藤亮太さんはご自身も体が弱く、高齢者や障がい者の支援につながる活動を目指して、学部1年の頃に友人とサークルを発足。声によってイルミネーションが反応するクリスマスツリーや、肘をついた状態で頭が洗える台など様々な要望に応じてきました。そんななか感じているのは、自分たちがつくる視点と障がいがある方が使いやすいと思う視点にはギャップがあるとい

うこと。加藤さんは「ギャップを埋めながら本当に役立つものを作りたい」と言います。

また、忘れられない出会いと別れもありました。脳腫瘍を患い電動車いすを使用していた女の子のためにスロープを製作。小学校入学を控えていた女の子が、リビングから屋外へ直接出られるよ



頭を動かすだけで、パソコン上のカーソルを移動できる装置も開発。

うに考えたものでした。この出会いが、他者に対する深い思いやりが芽生えるきっかけにもなりました。「出会った頃は病気に関する知識もなく、「小さいのに可哀そうだな」としか思いませんでした。半年後にその子は亡くなりました。ご両親は短い期間だったけど、僕たちが作ったスロープをととても喜んでくださいました。今でも命日にはお線香を供えに行きます。障がいがある人の多くは病気が体をむしばむ怖さを深く感じています。今できている生活を維持するために私たちに何ができるのか、ご本人やご家族と交流する時間を増やし、相手の要望を最大限汲み取るよう心がけています」。



女の子と一緒にスロープ完成のお祝いしました。

水産学部端艇部

呼吸を合わせて前に進む チーム競技がはぐくむもの

カッターボート(端艇)競技は、船舶の緊急避難時の訓練から派生したスポーツです。水産学部では、必修講義としてカッターボートを使った海洋訓練が行われていた時代があり、端艇部の部員も水産学部生のみで構成されています。

2023年の新人戦、端艇部は男女アベック優勝という記憶に残る結果を



大村湾を拠点に練習に励む男女端艇部(写真は男子)。船には艇長と艇指揮を含む男子12人、女子8人が乗船。全員が呼吸を合わせる点は同じですが、船の大きさが異なるため練習内容はそれぞれです。

出しました。勝因について、男子部長の和泉匠真さんは次のように語ります。「同じピッチで漕がなければスピードが落ちてしまう、団結力がものをいうスポーツです。新人戦では1年生12人で漕ぎ手をそろえ、メンバーの仲の良さが際立つ試合になりました。強かった頃の先輩が残してくれたメニューを参考にしながらも、さらに筋力を高める練習などを意識し、それに耐え抜いたことが大きな勝因だったと思います」。

女子部長の染谷菜里さんにも勝因を聞きました。「分析力の高さです。毎回動画を撮影し、それをもとに分析します。漕ぎ方に正解はないので、お互いの良いところ

や悪いところを指摘し合える関係も勝因の一つだと思います。個の能力だけでは前進しないカッターボート。そこにはチーム競技の醍醐味があります。「部には監督やコーチがいません。先輩から受け継いできた練習メニューを参考にしながら、海況に合わせた漕ぎ方の研究などメンバー



時津港での練習風景。



男子部長の和泉匠真さん(水産学部3年)、女子部長の染谷菜里さん(水産学部2年)。高校では和泉さんはラグビー部、染谷さんは吹奏楽部に所属。大学からカッターを始めました。

全員で課題をクリアしてきました。先輩たちと一緒に掴み取った賞でもある。そう思っています。洋上を舞台に伝統をつなぐ戦いは、強い絆もはぐくんでいます。



皇帝パレード前日にメッセージを製作。雨が降っても文字が消えないように、ペンキを使用しました。

書道部

書道には地域を元気にする力がある!



広報担当の境千晴さん(医学部保健学科3年、左から2人目)。



鴻洋祭で披露した作品。大きな作品の場合、台紙の準備など事前作業に時間を費やします。

全学サッカー部の横断幕や受験生向けの応援メッセージなど、書道部の元には様々な依頼が舞い込んできます。5月に行われた水産学部学園祭「鴻洋祭」では、晴れ渡った空の下、今年のテーマ「海晴」の文字が完成。見学に来ていた地域の皆さんから、たくさんの拍手が送られていました。「練習の成果や広報活動が、ご依頼につながっていると思います。作品を見てもらえることは活動の励みになります」と広報担当の境千晴さん。

今年2月、長崎ランタンフェスティバルに福山雅治さんと仲里依紗さんが登場した際にも、書道部が活躍しました。JA長崎から依頼を受け、巨大な

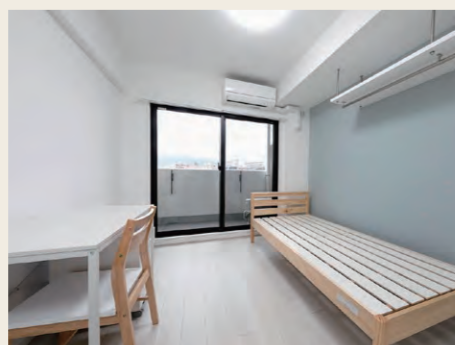
布製の垂れ幕に書いたお二人へのメッセージが、地元テレビ局のニュースに取り上げられたのです。書道部の公式Xにもたくさんの反響があったそうです。「当日の朝、垂れ幕を投稿したところ、たくさんのいいねとリポストをいただきました。ほかにも長崎県庁で行われたイベントなど、学外からご依頼をいただく機会が増えています」。

書道には地域を盛り上げる力がある。活動の場が外へ広がれば広がるほど、新しい気づきと自信を実感している書道部の皆さん。これからも期待に応え地域を盛り上げるために、一筆一筆の仕上がりに磨きをかけます。

[TOPICS]

「Uni E'terna長崎文教グローバルハウス」2024年3月完成

長崎大学文教キャンパス構内に全305室の国際学生宿舎「Uni E'terna長崎文教グローバルハウス」が誕生しました。充実した設備が整った学生宿舎となり、特集で紹介したサークルの学生も入居しています。安全・安心な環境のもと構内からの快適な通学で、勉強や運動に打ち込むことができる環境です。



Research

[研究]



研究に関する情報はこちらからもご覧いただけます。



Nagasaki University Research

長崎大学病院 総合診療科 睡眠・覚醒障害外来

近藤英明 助教

豊かな生活の基盤になる 眠りの価値を見つめ直す

近藤先生は睡眠・覚醒障害分野のエキスパート。一人一人の症状に丁寧に耳を傾け、正確な診断と治療につなげます。

皆 さんの睡眠への満足度はどのくらいでしょうか。世界睡眠調査2024によると日本人の睡眠への不満足度は40%で調査対象13か国中、ワースト1位だったそうです。また、OECDの調査でも、加盟国30か国中で日本人の睡眠時間は平均7時間22分でワースト1位だったとのこと。これらのデータから分かるように、日本人は睡眠の質、時間共に問題があり、睡眠障害は現代の「国民病」とさえ言われることもあります。今年6月には厚生労働省が、医療機関が掲げることができる診療科に「睡眠科」を追加する方針を示しました。そして、睡眠の向上に関しては、長崎大学でも研究や診療が進められていることはご存じでしょうか。

2023年4月、長崎大学病院に睡眠・覚醒障害外来が開設されました。すべての年齢層の多様な睡眠・覚醒障害患者に対応できる、県内唯一の医療機関として注目を集めています。総合診療科の専門医でこの外来を担当する近藤英明先生にお話を聞きました。



1990年長崎大学医学部卒業。同年同大学医学部附属病院第一内科入局。1996年より睡眠障害の診療に携わる。秋田大学医学部精神科で睡眠・覚醒障害診療の研究をつみ、済生会長崎病院、筑波大学国際総合睡眠医学研究機構(IHS)准教授などを経て、2023年より現職。

「最初の患者さんは、30年程前、私が長崎大学病院の内科医だった頃、研修医が睡眠時の無呼吸に気づいた肥満患者でした。当時、身体に直接装着して脳波等を計測する睡眠検査は、長崎大学病院では初めての試みでした。その後、閉塞性睡眠時無呼吸に対するCPAP療法は1998年に保険適用となり、広く治療も行われるようになりました。睡眠・覚醒障害の治療薬も臨床で使用可能となったほか、さらに不眠症に対する認知行動療法といった薬に頼らない治療法も確立されてきました」。



外来診療と並行して取り組んでいるのが、各世代を対象にした睡眠調査。近藤先生は小学生から大学生、妊婦、行政職員、大規模な食中毒事件の患者さんなど幅広い調査実績をお持ちです。

「例えば子どもたちの不登校と睡眠問題には、どのような関連があるのか。解明につなげるための前段的な取り組みとして、子どもたちの睡眠障害について問題を感じていた中山小児科クリニックの中山裕介医師と長崎市内の中学校で睡眠調査を行いました。生徒の皆さんには睡眠に関する質問に加えて、うつや不安感に関する質問にも答えてもらいました。本格的な解析はこれからになりますが、朝すっきり起きることができず、だるさを感じている生徒さんや、就寝時に脚がむずむずするレストレスレッグス症候群が疑われる生徒さんが多い印象です。睡眠・覚醒障害の要因や症状は多岐にわたりますので、いち早く問題を発見し、それぞれに応じた対処を考えなくてはなりません」。

どの世代にも起こり得る睡眠・覚醒障害。睡眠レベルの向上を目指す取り組みの一方で、受け皿となる医療体制について課題を感じている近藤先生。

「日本ではこの分野の標準治療が、まだまだ浸透していません。これまでの医学教育の中で十分なトレーニングが行われてこなかったことが、要因の一つと言えるでしょう。そのため専門医の育成が喫

緊の課題です。また、睡眠・覚醒の問題にお困りの方々が医療情報にアクセスでき医療につながる仕組み作りも必要です。当院では、離島在住の方にも医療を提供できるように、初診からのオンライン診療を含めた診療体制づくりも推進しています」。



近藤先生とポリソムノグラフィ検査を担当する検査技師の皆さん。



Saiyu Fund

[西遊基金]



西遊基金にご支援をいただいた
県内企業の皆様をご紹介します。

寄附に込める想い

今しかできない学生の経験や 出会いの一助に

三菱長崎機工株式会社 取締役執行役員 営業本部長 **森藤 大介** さん

当社は様々な産業界の工場等に
納入する設備や部品の、設計から製
作までを行う会社です。1942年創業
の三菱造船(株)長崎製鋼所を前身と
し、戦前から続くモノづくりの伝統を継
承するとともに、新しい技術の導入や
開発に力を注いでいます。
取り扱う製品は多岐にわたりますが、
身近なところでは、ゴミ袋や梱包材の
素材になる低密度ポリエチレンなどを
製造する石油化学製品工場で当社

の機器が使用されています。ほかには
鉄などの金属を強力な磁力で選別で
きる磁力選別機、港湾工事などに使
われる浚渫バケットといった大型製品
からコンパクトな部品まで、柔軟に対応
できる技術と設備が自慢です。また、洋
上風力発電事業にもいち早く着目し、
五島沖で稼働中の浮体式設備に当社
の製品が使用されています。今後は
浮体式設備の大型化や大量受注に
備えて、新たな製造機器の導入や県

内企業との連携など、準備を進めてい
るところです。
西遊基金への支援については、学
生の皆さんが実習や留学など貴重な
経験をしたり出会いの場を得る一助
になれば、あるいは共同研究など、長
崎大学との連携につながるきっかけに
なればという思いがありました。結果と
して学生の育成や新技術の開発など、
なんらかの形で地域貢献になれば嬉
しいです。



当社には36名の長崎大学OBが在籍
しています。私もその中の一人です。
学生時代は経済学部のバスケット
ボール部で汗を流しました。



三菱長崎機工
株式会社
長崎市深堀町1丁目2-1
TEL.095-871-2211

挑戦する若者たちを サポートしたい



仲和コントロールズ株式会社 九州事業所
執行役員 装置第2事業部 事業部長 **大坪 貴幸** さん

分野や国籍を問わず **DAISHIN** 活躍できる人材育成に期待

大新技研株式会社 取締役 総務部長 **大神 幸弘** さん
大新技研株式会社 管理部技術革新課 **川内 亨子** さん

1974年に創業し、今年は50周
年の大きな節目を迎えました。
ロゴマークをはじめ、様々な記
念事業を企画しています。

当社はソフトウェア事業
および設計事業を軸に事業
展開している会社です。
本社は県北の佐世保市
にあり、長崎市内にある
支社では設計部門及び
ソフトウェア部門を有し
ております。

西遊基金に支援をしているのは、
地域貢献という意図もありますが、変
化する社会に対応できる学生を幅広く
支援・育成するという西遊基金の目的
に賛同したことが大きいです。これか
らはグローバルに対応できる人材が必
要と感じていますので、日本文化に深
い理解を持つ留学生や、高い国際感
覚で世界に羽ばたく日本人学生など
多彩な人材の育成に期待しています。

私たちの事業では、理系文系にか
かわらず多彩な人材を求めています。
当社は理系人材が中心の会社



に思われるかもしれませんが、長崎大
学教育学部出身者も在籍しており、ソ
フトウェアのシステム営業を担当してい
ます。教育学部の情報メディアコース
(当時)で学んだ知識を活かし、全国
のお客様相手に活躍しています。

日々変化する情報技術やお客様の
要望に対応する際に、多彩なキャリア
を持った人材がいることが、この会社
の強みになっています。

大新技研株式会社
佐世保市広田4-5-5
TEL.0956-39-1201

大学時代は、毎週末夕方から
翌朝にかけてのアルバイトを
続けながら生活と勉強を両立
させていました。皆さんにも
学生の間にいろんな経験を積
んで欲しいと思います。



当社は大きく3つの事業部に分か
れており、大村市に拠点を置く第2事
業部では、半導体の製造工程におけ
る温度や湿度をコントロールする精密
温調装置を製造しています。半導体
やフラットパネルディスプレイの製造装
置メーカーが主なお客様です。
第一に緻密かつ正確に温度・湿

度をコントロールできる高い性能が求
められ、近年では環境負荷につながら
ない装置を開発することが課題のひと
つです。長崎大学工学部には冷凍空
調工学を専門とする先生がいらっしゃる
ので、研究室を訪ねて指導いただく
こともあります。また、当社の技術者と研
究室の皆さんが意見交換を行う機会
もあります。
現在、第2事業部には20名の長崎
大学卒業生が籍を置いています。私
自身も工学部の出身で、28年前の入
社当時は設計部隊の経験値も高くは
ないなかで設計に携わることになり、分
からないことがあれば大学の研究室を
訪ねていました。

2017年から、西遊基金に支援をさ
せていただいています。学生の皆さん
の中には、何かに挑戦したくても、経済
的な問題で諦めている方もいらっしゃる
のではないのでしょうか。寄附を通じて、そ
んな皆さんの道を切り開くサポートがで
きればと考えています。

仲和コントロールズ
株式会社
大村市雄ヶ原町1313-46
TEL.0957-52-7501

Interview

留学生インタビュー

マレーシア出身のパーラティ・カツミさんは、
多文化社会学部の3年生。「葉 國璽」私費外国
人留学生奨学金制度を活用し、学業に励んで
います。今回は学生広報スタッフの私が、友人
でもあるカツミさんにお話を伺います。

Circle Interviews
学生広報
スタッフが
インタビュー



平部 桃子 さん
多文化社会学部3年

奨学金が支える夢、 長崎での充実した学びと留学生活

—まず、留学先として長崎大学を選んだ理由を
教えてください。
カツミさん 私にとってもう一つのルーツである日本の
文化や自然に小さい頃からすごく興味がありまし
た。なので、大学生活は、日本で送りたいと思い、挑
戦しようと思いました。長崎大学を選んだのは、長
崎には中国やオランダとの交易の歴史があるので、
長崎大学にも多様性を受け入れる環境があり、留
学生も充実した学生生活を過ごせると思ったから
です。また、日本の戦争の歴史や長崎の原爆につ
いて深く知ること、戦争によって学ぶ機会を失った
人々のことを知り、学べることへの感謝が強くなっ
ていくのではないかと思います。
—長崎出身の私は、早くから平和学習が身近
にありました。こうして海外から長崎の被爆の歴史
に関心を持ってもらい、同じ学部と一緒に学べる
のが嬉しいです。多文化社会学部ではどのようなこ

とを学んでいますか。
カツミさん 西田充教授のゼミ(国際公共政策
コース)で学んでいます。外交や核軍縮、安全保障
などの国際問題について、英語と日本語の両方
を使って議論するのが楽しいです。ゼミでは核兵
器や東アジア周辺国の核の危機について議論し
ますが、私は東南アジアから来たこともあって少し難
しいと感じることもあります。でも、核の傘の下にある日
本で、日本人の友人たちと日本に身近な問題につ
いて考えたり、議論したりすることは新しい経験で
とても意義を感じています。
—留学を踏まえて将来の夢や目標はありますか。
カツミさん 留学前は戦争の歴史や原爆につ
いて深く知りませんでした。長崎に来てから、被爆
者の体験談や、長崎出身の友人から小・中学校
で行われている平和教育について教えてもらっ
て、長崎のことを学んできました。また、同世代であ



国際学寮ホルテンシアで、ルームメイトの
誕生日パーティをしました。

るウクライナからの学生との交流も、長崎
大学に留学したから得られた経験です。
マレーシアは、核保有国ではありません
し、長崎のような経験もしていません。今
後も長崎にいるからこそ得られる知識、
国際的な考え方を深めていきたいです。
そして将来は、世界の人道的な問題
に取り組む政策や外交に携わりたいと
思っています。マレーシアの大使館や核
軍縮に関わる国際機関にも興味があり
ます。
—私も奨学金をいただいて留学した
経験があります。留学先で何をするのか、
目標を明確にするきっかけにもなったの
ですが、カツミさんはいかがですか。
カツミさん 1年生の時に経済的な不
安が強く、指導教員に相談に行きまし
た。アドバイスをいただく中で、私も奨学
金をいただいて経済面の不安が少なく

今回、インタビューとしてカツミさんにお
話を伺って、私自身も刺激を受けました。い
つも笑顔が素敵な彼女も、困難に立ち向
かっていたこと、努力を続けている姿が印
象的でした。友人として、同じ学部で学ぶ仲間
としてこれからも頑張っていきたいと思います!



2つのルーツを持つパーラティ・カツミさん。父はインド系マレーシア人、母
は日本人です。「マレーシアの食卓には、お味噌汁とカレーが並ぶ日もあり
ます(笑)」。



長崎大学交流会は令和6年度も開催予定です!

いち早く長崎大学交流会の開催案内をお届けします。校友会メールマガジンにご登録ください。

西遊基金

「西遊基金」は、長崎が長年にわたって培ってきた個性と伝統を基盤に、地域の発展から地球規模の課題まで、種々の問題を解決するための傑出した人材育成を目指した、長崎大学独自の修学支援、さらに教育・研究の幅広い支援を目指した基金です。

西遊基金に関する
情報はこちらから
ご覧いただけます。

